

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22064

建築物名称	(仮称)ヤオコー川崎上麻生店新築工事
建築主	株式会社 ヤオコー 代表取締役 川野 澄人
建築物の所在地	川崎市麻生区上麻生三丁目1番1、1番2、1番3
設計者氏名、建築士事務所名	内海 幸夫 株式会社九段建築研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,634.69㎡
用途	物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
階数	地上1階、地下2階
工事完了予定年月	令和6年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤオコー川崎上麻生店 新築工事	階数	地下2F、地上1F
建設地	川崎市麻生区上麻生三丁目	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第二種中高層住居専用、準防火地域	平均居住人員	549 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,964 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年3月23日
敷地面積	6,740 m ²	作成者	立石のぞみ
建築面積	2,908 m ²	確認日	2023年3月23日
延床面積	5,635 m ²	確認者	内海幸夫

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 74%
③上記+②以外の 74%
④上記+ 74%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.4/4.3	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	-	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	・遮音/断熱性能のよい外皮材料とする。	0.5/0.8	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.2/2.3	2.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	4.2/5.0	4.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	3.2/4.7	3.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	-	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.6
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	・耐用年数の長い外装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	0.3/0.5	3.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	2.7/4.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.2/2.3	2.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	4.2/5.0	4.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	-	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	-	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	0.8/1.3	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	4.2/5.0	4.2

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.2	0.40	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	
1	広さ・収納性							
2	高度情報通信設備対応							
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性					3.3	0.30	-	
1	広さ感・景観			【物】3.6m以上、【飲】3.3m以上	5.0	0.33	-	
2	リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	
3	内装計画				3.0	0.33	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計			清掃性及び防錆対策などの配慮	4.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性					3.2	0.30	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.8	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		耐用年数の長い外装仕上げ材を使用	5.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		耐用年数の長い配管材を使用	5.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20	-	
2.4 信頼性					2.8	0.20	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	
3 対応性・更新性					3.2	0.30	-	3.2
3.1 空間のゆとり					3.8	0.30	-	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	-	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	
Q3 室外環境(敷地内)					0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出				G	W		H	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	2.0

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	4.2	0.20	-	4.2
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] = 0.70	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	-
集合住宅の評価					-	-	-	-
4.1 モニタリング	W		H		-	-	-	-
4.2 運用管理体制	W		H		-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	3.3
1 水資源保護	W	R			3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水				自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				ハイベースNEO工法、GLデッキ等を採用	4.0	0.11	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.22	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.22	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	0.22	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				躯体と仕上材の分離が容易である	4.0	0.22	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	-	-
1 消火剤					-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-
3 冷媒					3.0	0.50	-	-

